

【科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実について】

項番	主な御意見	対応
1	罹患率、検診率について相変わらず北海道は悪く、まだまだ課題がある。子宮頸がんワクチンについて、ありきたりな対策では駄目だろうと思う。本当に先進国ではるかに遅れており大問題になっているので、引き続き道でも皆さんで考えていただきたい。	子宮頸がんワクチンの関係については、国では積極的勧奨を控えるという状況は続いており、定期接種の接種機会の確保ということで、しっかり情報提供を行い、自身に選んでいただけるようにするのが現状の指針とされております。また、積極的勧奨をどうするかという点については、国の副反応検討部会で引き続き議論が行われることとされておりますので、こうした国の動向に注視し、道においても、必要な対応を検討してまいります。
2	北海道のリコール率が結構良いが何か原因は考えられるのか。	国が実施しました「市町村におけるがん検診の実施状況に係る調査」の結果によると、リコールの9割は一部の未受診者に対しての実施となっております。また、リコールの率が多い理由としては、この数値が個別受診勧奨を行った市町村のうち、個別再勧奨を行った市町村の割合により算出されており、道の場合、母数となるコール実施市町村数が少ないため、実数で見るときには必ずしも良好という訳ではないようです。
3	子宮頸がんに関しては、精検受診率と未受診率ともに低いが、未把握率が40%と異常に高く、統計として把握できるレベルの話ではない。これでは未受診率とかの議論はできないのではないかと。	精検受診率等については、人口規模が大きい札幌市の状況が大きく影響されており、同市では、まずは実態把握と検証を行うこととされているため、その後の取り組みについて、北海道がん対策推進委員会ががん検診専門部会の方でも確認させていただきながら必要な対応を検討したいと思っております。
4	子宮頸がんのワクチンの接種が始まったあと副作用が気になるあまり接種を止めてしまった人たちがいる。キャッチアップをきちっとやって、未接種の人の面倒も見ることが大変必要になるので、ぜひ積極的に実施して欲しい。	定期接種の担当部署等と連携し、必要な対応を検討してまいります。
5	禁煙週間と合わせ No-Tobacco展の開催などが行われているが、すべては札幌で行われており、展覧で使ったものを希望する自治体に貸し出すとか、道内の主要都市で持ち回りで開催することを、自治体と連携してやっていただきたい。	今年度、一部の市町村の御協力を得て、がん予防パネル展の出張開催を予定しており、その開催結果をもとに、来年度以降、開催場所や方法をさらに検討したいと考えております。また、パネル等の啓発資材については、北海道対がん協会において貸出されていることを、改めて市町村へ周知を行いました。
6	HPVワクチンの勧奨について、昨年、定期接種であることを個々の対象者に通知するよう国から指導され、苫小牧市においても来年度、始めたいと思っている。北海道としても、ぜひ自治体の後押しをお願いしたい。	定期接種の担当部署等と連携し必要な対応を検討してまいります。
7	受診率の向上対策の部分で、道内の自治体で、特定健診とがん検診を一体的に取り組んでいる自治体数がどれぐらいあるのか。また、国民健康保険担当の国保医療課との連携がされているのか伺いたい。	特定健診とがん検診の同時受診については、国が実施しました「市町村におけるがん検診の実施状況に係る調査」の結果によると、一部実施を含めると道内の多くの自治体で実施されている状況となっております。なお、道内では、特定健診の受診率も低調であることから、担当部署とも連携しながら双方の受診率の向上に資するよう取組を検討してまいります。
8	大学でHPVワクチンの勉強会などしているが、1回受けてそのまま2回目を受けてないとか、HPVワクチンが定期接種であることを知らない方がいて、個人で調べても正確な情報というのが出てこない。道の方から、正確な情報をまとめたホームページなどがあると、若い子たちが情報にアクセスしやすい。	定期接種の担当部署等と連携し必要な対応を検討してまいります。
9	若い世代の人たちの女性の受診率を上げるためには、それ以前の教育がすごく大切であって、子宮頸がんに関しては未だに偏見みたいなのところもあり、受診、ワクチン接種の対象となっている年代に、正しい知識を提供していくことが大切である。大学でも婦人科の授業はあるが、なかなかHPVワクチンに関しては、先生方の意見も違ったり、私たち自身も学んでいく上で、疑問に思うことがたくさんあるので、大学の授業でも取り入れていただきたい。	大学へのがん教育の出前講座の実施について、今後検討してまいります。
10	喫煙と肺癌の関係について、喫煙者の肺癌は相当実力の高い放射線科医が見ても分からないがんが結構たくさんあり診断が難しく、さらに、診断がついて切除しても再発する率が結構高く、治療がなかなか困難な場合が多い。肺気腫とか線維化などを起こして、正常の肺じゃないところにあるがんが、炎症性の陰影なのか分からないことがあるので、禁煙のいろいろな講演等で情報を流す際に、タバコを吸っている人が肺癌の検診を受けて、早く見つかるって治るというような間違った情報を持たれると困るので、タバコは肺全体を汚くして、疾患の発見を難しくすること、周辺の健康な人たちにも害を及ぼすということを、ぜひ力を入れて説明していただきたい。	喫煙が及ぼす健康への影響に関する普及啓発については、北海道たばこ対策実施要綱に基づき、市町村及び関係機関・団体と連携しながら取組を進めているところであり、御意見につきましては、今後の取組の参考とさせていただきます。

【患者本位のがん医療の実現】

項番	主な御意見	対応
1	国の患者体験調査を参考数値としているが、北海道の事情とか広域という特徴などがあって、一つのアウトカムになると思うので、全国の数値との比較ができるようにしてはどうか。	御意見を踏まえて、全国との比較ができるよう、数値を追記しました。
2	AYA世代がんの妊孕性温存治療について、今年度から国で、妊孕性温存治療に対する補助金や助成金が出る事が検討されているが、道としては、どのような方向で動く方針なのか。	国における妊孕性温存治療に係る助成制度の内容は別添資料のとおりとなっており、道における制度のあり方について、現在、関係する医療機関等と検討を進めているところです。

【尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築】

項番	主な御意見	対応
1	喫煙防止教育教材DVDとあるが、こういう教材があると非常にリモートをする場合にいい。DVDの貸し出しが配信でいつでも見たりとかということができると、現場の先生方も借りたりとか、がん教育についても、出前講座というのを、がん患者経験者の方から、これまでやられていたのですが、なかなか学校現場も外部の方を学校に来てもらうっていうのが、感染症の関係上、迎え入れることが難しい状況なので、そういった教材、今言ったような教材リモートで使えるような教材というのが、確か札幌市でDVDか何かあったかと思うのですが、いつでも使えるような形、状態であるのかどうかということをお聞きしたい	喫煙防止健康教育教材DVDについては、市町村へ配布しているほか、道庁のホームページから動画を視聴することが可能となっております。 また、がんの教育教材DVDについては、平成30年度に道で作成し道内の全ての小学校へ配布したところです。今後も希望に応じて再配布が可能となっております。